

纏う鞆～ユニバーサルデザインを取り入れた男性向けシリーズの開発～

軽く柔らかいエゾシカ革を身に纏うよろこび

エゾシカは近年の急増により自然環境だけでなく、農作物や交通事故などによる生活への影響が心配されている。24Kは素材としてエゾシカ革を活用することで、持続可能な自然との関係性を提案する。エゾシカ革は流通経路が殆どなく、安定した供給を確保できないという課題があるが、軽くて柔らかく肌ざわりが良い魅力ある素材だ。

エゾシカ革の製品は特に男性から人気が高く、24Kでは以前よりメンズラインの製作を構想していた。鞆をメイン製品とした新ブランドを開発する中で、杖をついている高齢者は鞆を持ちにくいということが気にかかった。そんな時、高瀬さんの父が愛用している釣り用のアウトドアベストがヒントとなった。ポケットが多く機能的なベストは、鞆の代わりとして身に纏うことができる。エゾシカ革は保温性と通気性が高いため、オールシーズン楽しめるアイテムだ。日常にしっかりとなじむ、シンプルで使いやすいデザインに仕上がった。

貝澤珠美氏とのコラボブランド「ka e ka」

新ブランド「ka e ka (カエカ)」には、先述したベストの他にボディバッグやサコッシュなどがある。いずれもスタイリッシュで、メンズラインではあるが性別や年齢を問わずファッションに取り入れることができそうだ。

「ka e ka」をより北海道らしいブランドにしたいという高瀬さんの想いから、アイヌ紋様が製品デザインに取り入れられた。紋様のデザインは、アイヌにルーツを持つデザイナーの貝澤珠美氏が手がけた。それらがプリントされた生地は、ベストの裏地部分やサコッシュのほぼ全面に使用されている。

高瀬さんは「貝澤氏とコミュニケーションを重ねる中でデザイナーとしても認め合うことができ、非常に意義深い事業となった」と話してくれた。協働によってブランドにますますこの土地らしさが加わったように感じられたという。北海道で生まれた「ka e ka」。それらを身に纏う人々が、この地にまた新たな物語を刻んでいくのだろう。

白いエゾシカ革
「素材の良さを引き出すデザインを生み出していく」



代表取締役
高瀬 季里子

エゾシカ革 アルチザンデザイナー

純金を意味する「24K」の名には、自然と人が調和する可能性への想いをこめました。「ものづくり」は自然と人間社会をつなぐ架け橋となる営み。革製品の製作を通じて、そんな希望を世界に届けたいと考えています。

小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業補助金



サロン(エプロン)型サコッシュ
「若い世代も気軽に取り入れられる」



裏地がアイヌ文様のベスト「着心地の良いベストは
オールシーズン活躍する」

株式会社 24K

人と自然との共生のかたちを提案する

使い込むほどに愛着が増す革は“役にたつアート”。オリジナルデザインと技法でかたちを表現し、手づくりの温度を感じるモノを提案。

設立 平成24年2月

従業員数 6名

代表者 高瀬 季里子



札幌市中央区大通西18丁目1-40-307

TEL 011-577-8104

<https://24kirico.com>